

No. J2310

カンボジア初期上座部仏教寺院の成立
—中世カンボジアにおける「上座部仏教国」化の過程と実態—

早稲田大学文学研究科
博士後期課程
下田 麻里子

本研究は、カンボジアの上座部仏教社会化の拠点となった、上座部仏教寺院の成立過程を明らかにすることで、社会形態が大きく変容する中世カンボジアにおける宗教および社会変容の実態解明を目的とする。ヒンドゥー・大乘仏教社会から、現在へ続く上座部仏教社会へと社会形態が大きく変容する 13 世紀から 16 世紀カンボジアで、上座部仏教の影響と意義について物質文化的側面から明らかにしようとするものである。

2023 年度中は主に以下の 4 点に着目して調査、分析を進めた。一点目は、対象とする 3 王都の中心的寺院の上座部仏教化の過程や伽藍配置の検討である。アンコール地域の中心的寺院バイヨン寺院の周辺に建造された周壁と上座部仏教関連の衛星寺院遺構群の建造順序、時期やその意図について調査、分析し、同寺院が複合的な信仰の場として変容していった様相について言及した。本成果は『東南アジア考古学』第 43 号に論文として発表した。2 点目は、これまで、地域に分布する遺構数さえ未把握であったトゥールバサン地域における遺構および地域的傾向の把握である。同地域で 120 サイト以上における踏査調査を実施、目録作成のための基礎情報を収集した。本調査により、ミクロなエリアごとの土地利用の時期差、未報告であった中世の上座部仏教関連の仏教基壇やシーマー石の存在を確認した。本成果は 2023 年 6 月 24 日に行われた第 10 回ポスト・アンコール研究会にて「スレイ・サントー地域の中世上座部仏教寺院」という題目にて報告した。3 点目が、アンコール・トム内最大級かつ最初期の仏教テラス ATV009 の増改築過程や年代を明らかにすることを目的とした発掘調査の実施である。調査により、当初想定されていたよりも本遺構が複雑な増改築過程を経ていたことが確認され、また年代分析試料を採取した。4 点目として、これまで体系的に提示されてこなかったカンボジアの 13 世紀から 16 世紀におけるシーマー石編年検討であり、分析内容の一部を 2023 年 12 月の東南アジア考古学会大会において「13 世紀から 16 世紀カンボジアのシーマー石の編年」という題目にて発表した。